

## 準準決勝 NTT 東日本戦 7 対 1 で完敗

東京対決の NTT 東日本戦は東京都支部大会、春季は NTT 東日本の勝利、秋季は明治田生命の勝利で 1 勝 1 敗の決着戦試合。

先発投手 NTT 東日本ルーキー右腕堀投手(立正大)、明治安田生命はベテラン古田の投げ合いで試合は開始された。NTT 東日本堀投手はストレートと変化球のコンビネーションが良く 7 回 2/3 を 2 安打与四球 3 奪三振 7 と明治安田生命を封じこめた。

対する明治安田生命古田投手はコーナーワークで撃たせて打ち取るのが信条のピッチャーだが今日はボール先行が多くピンチの場面が多かった。

先取点は 2 回先頭打者を 3 ボール 2 ストライクからセンター前ヒット送りバンドで 1 死 2 塁として次打者をセカンドゴロに抑え 2 死とするもこの大会無安打の 1 番打者に初球ライト前にタイムリーヒットされ先取点を与える。3 回 2 死走者なしから連続四球を与え前打席でヒットの 7 番バッタに一ライトスタンドに運ばれる 3 ランホームランで試合を決められた。従来の古田投手は丁寧な投球もこの試合はボール先行で安定感のある投球が出来なかった。

4 回から三宮投手登板、6 回まで三者凡退と好投するも 7 回先頭打者にセンター前ヒットと味方のエラーと死球で降板し、1 死満塁のピンチに 2 回戦で好投した大久保投手に代わる、打ち取った打球が内野前進守備の後方にアンラッキーなりセンター前に 2 点タイムーで万事休す 6 対 1 と引き離された。

攻撃陣は NTT 東日本が繰り出す投手陣を打ち込む間もなく 8 回に 2 死満塁から相手の内野エラーからの 1 点止まり 6 対 1。8 回 2 死走者無しから不運な打球が続き

3連打でダメ押しの7点目を献上する。

攻撃陣は1・2戦と変わり大振りのスイングで凡フライが多かった。チャンスでは見逃しの三振が多く一般的に粗い攻撃が目立った。

岡目八目だが7回の守り1死満塁、得点差を考えると内野前進守備ではなく併殺打を狙った守備ならばセンター前のあたりはセカンドフライで済ませたか?結果は詰まりながらセンター前2点タイムリーでダメ押し点になった。これは結果論で岡目八目だ//

社会人野球日本選手権大会での明治安田生命の健闘は素晴らしいに限る。

チーム創部以来の社会人野球日本選手権大会8強の偉業は来年度都市対抗野球大会への大きな飛躍する土台作りになったと感じる。私だけだろうか?

シーズン終わりを迎えるにあたり都市対抗野球東京都予選は今一步で敗退したが地方大会での健闘と東京都秋季企業大会での優勝そして関東選抜リーグ戦グループ1位の成績は従来にない健闘と称賛したいと思う。

是非来年度は今年の経験を活かし都市対抗野球東京都予選を勝ち抜き東京代表切符を手中に収めてください。

監督・スタッフ・選手一同の皆様1年間感動をありがとう!!

明治安田生命野球部のファンの皆様明和会ホームページに掲載の拙文つちだのレポートをお読みいただいた皆様に感謝申し上げます。

季節柄これから寒さも一段と厳しくなりますのでお身体を大切にしてください。

2017年11月11日

土田唯雄